

三世代が和やかに きらり子どもまつり

「三世交流」ならしのきらり子どもまつり」が10月15日、白鷺園の園庭と周辺で開かれた。子どもまつりは市制50周年とともセンター開設の日を踊りや演奏などで楽しんできた。



鷺沼ばやし保存会による鷺沼ばやし

オープニングでは3歳児と4歳児が可愛い開会宣言を行い、鈴木とし江実行委員長は「まつりが末永く続くように楽しんでほしい」と挨拶した。伝統のお囃子を伝える鷺沼ばやし保存会は、ばか面踊りと鷺沼ばやしを披露し、地域の人々も加わり、踊りの輪が広がった。鷺沼小学校の児童は吹奏楽を演奏したほか、元気なよさこいソーランで会場を盛り上げた。有志でよさこいを踊った千葉悠人さんは「地域の人が笑顔になれるように」

生懸命踊りました。笑顔で贈ることができてよかった」と話していた。交通規制された白鷺園前の道路はフリーマーケットの会場となり、ゲームコーナーが設けられ、ちゃんこ鍋、カレーライスなどの販売に長い列ができた。まつりには阿武松部屋の若手力士たちが餅つきなどに協力し、大きな体に触れて喜びの姿が見られた。現在、建替えが進められている「子どもセンター」の工事は来年1月には完了する予定。

園児もシニアも舞台へ みな友ライブ賑かに

第六中学校学区の演奏会「みな友ライブ」が10月22日、六中で開催された。六中学校地区学習会が「みな友会」が地域の絆を深めようと催し、今年で15回目を迎えた。お囃子と獅子舞の屋敷地域おほやし会、ばか面踊りの天津会、習志野シニアアンサンブル、屋敷公民館フラサークル、屋敷小学校吹奏楽部は「世界にひとつだけの花」などで、美しい音色を聞かせ、六中管弦楽部は「カルメン」のほか、オーケストラによる「ゴジラ」で豊かな音を響かせた。演奏会は屋敷小児童と六中生徒による「ふるさと」に会場も声を合わせ、フィナーレでは恒例の「きらりとサンバ」をみんなで踊



屋敷小学校吹奏楽部

り、賑やかなフィナーレとなった。司会・進行は六中の生徒が務めた。生徒会長の緒方良亮さんは「無事に終えられてよかった。年代を問わずに地域のひとと一緒になれる場面について説明を

落語で想像力養う さわやか袖っ子寄席

「さわやか袖っ子寄席」が10月19日、袖ヶ浦団地集会所で開かれた。この寄席は袖ヶ浦落語研究会が落語家を招き、伝統落語のおもしろさを通じて、子供たちに「教科書には載っていない勉強をしてみたい」と企画されている。今回は袖ヶ浦西小学校と袖ヶ浦東小学校の4年生と一緒に特別授業を受け、落語を楽しみ、聞く力や想像力を養った。

講師を務めたのは落語芸術協会に所属する二ツ目の桂伸三さん。今年3月、桂伸三門下となり、春雨や雷太から名前を改めた。習志野市出身で津田沼小学校、第五中学校を卒業した。初めに長襦袢姿で登場した伸三さんは、着付けをしなから、帯の結び方や羽織を着る場面について説明を

した。落語の小道具として欠かせない手ぬぐいを使って焼き芋やバナナを食べる仕草を見せ、扇子を箸に、そば、うどん、ラーメンの食べ分けを実演した。扇子一つを煙管や刀にしたり、和ばさみで切る様子を見ようと、子供たちは身を乗り出してのぞき込んだ。身ぶり手ぶりで、まんじゅうを食べ、お茶を飲む様子に想像力を働かせ、次々と出



桂伸三さん

つきたての餅味わう 実籾郷の会で収穫祭



堅杵で餅をつく子供たち

実籾郷の会の収穫祭が10月10日、郷の会の水田横で開かれた。稲刈りを終えた田には、ひこばえが伸び、秋の虫たちも顔を出していた。郷の会は、実籾本郷地区に残る自然環境を守り、子供たちに稲作を教えるボランティア活動を行っている。今年の収穫祭には小学生、幼稚園児らを中心に約130名が参加した。収穫されたばかりのモチ米が蒸され、郷の会の男性メンバーによる杵の音が響いた。子供たちも「よいしょ、よいしょ」とお米に感謝してお礼を言った。

さされる小唄に肩をゆすって大笑いした。高座では与太郎の滑稽話「生ほめ」が演じられ、与太郎のとぼけた話ぶりやしぐさが大うけしていた。伸三さんは子供たちに「落語には答えのない良さがありません。答えはないが、ヒントはある。考え上手になってもいい」と伝えた。袖ヶ浦落語研究会は初笑い寄席などを催し、落語によって地域貢献している。袖っ子寄席の後には「袖ヶ浦ふれあい寄席」が開かれ、地域の人も落語や紙切りなどを楽しんだ。

5種目で楽しい汗 障がい者スポーツ大会

障がい者スポーツ大会が10月21日、東部体育館で開かれた。大会は障害を持つ人に気軽に運動を楽しんでもらおうと、習志野市が催している。主催者は「リオデジャネイロ・パラリンピックでは132名の選手のうち、市内に所属する選手3名が出場しました。汗を流す楽しい機会にしてください」と述べた。

大会ではスポーツ吹き矢、柔らかいフリスビーでの抜きをする「デイスゲッターナイン」、ヒモでつながっている個のボールを投げてラダー（ハシゴ）に引っかけポイントを競う「ラダーゲッター」など5種目が行われた。スポーツ吹き矢に挑戦した女性は「一本しか外しませんでした。楽しかった」と話していた。



新スポーツにも挑戦

また、会場には音の鳴る球を、台の上に張られたネットの下を転がして打ち合う「サウンドテーブルテニス」の専用台も設けられた。今回、新たに「ポッチャー」にヒントを得て発案された新スポーツの団体戦が行われた。ポッチャーは白い目標球に向けて6球ずつのボールを投げたり、転がし、他のボールに当たって、目標に近づけるかを競う。障害によりボールを投げることでなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えるこ

とができれば参加でき、パラリンピックの正式種目となっている。新スポーツは、ユニカーのコートにインドアバタのゴムボールを転がす、的に近いほど得点が高

写真、陶芸ほか秀作並ぶ あじさいクラブ連合会作品展



市長賞、市議会議長賞ほかの受賞者

第40回「習志野市あじさいクラブ連合会作品展」が10月18日から21日まで、総合福祉センターで開かれた。あじさいクラブ連合会はあじさいの魅力を伝えるべく、30分間の時間をあけては取組んでいます。楽しくて仕方ありません」と話していた。バックに来場者は「丹念な

祭りや夕景題材に 写真連盟合同写真展

第21回「習志野市写真連盟合同写真展」とフォトコンテストの入賞作品が発表され、市長賞には花の雫を写した石田晴子さんの題名「光る雫」が選ばれた。写真展には祭りや夕景など、入賞者は次の通り。(敬称略)
市長賞 石田晴子
教育長賞 佐藤英樹
写真連盟賞 杉田文字
入選 大橋忠、林秀敏、渋谷龍樹
新人賞 坂部昌也
会場では「第3回まちフォトコンテスト」も開催された。最優秀賞の堀田良子さんの「夕やけ 富士山 青春」ほかが並んだ。

写真、陶芸ほか秀作並ぶ あじさいクラブ連合会作品展

第40回「習志野市あじさいクラブ連合会作品展」が10月18日から21日まで、総合福祉センターで開かれた。あじさいクラブ連合会はあじさいの魅力を伝えるべく、30分間の時間をあけては取組んでいます。楽しくて仕方ありません」と話していた。バックに来場者は「丹念な

では芸能・カラオケ大会、囲碁・将棋大会などが行われている。作品展には書、絵画、写真、陶芸、手工芸の各部の秀作が並び、段ボールで作られたという甲冑や木目込人形などが来場者の関心を集めていた。開会式では主催者を代表して、あじさいクラブ連合会の中村元英会長と習志野市社会福祉協議会の海賀嘉胤会長ほかから各賞の受賞者に表彰状などが贈られた。

毛糸手編みの出品者は「初めて数年ですが、30分の時間をあけては取組んでいます。楽しくて仕方ありません」と話していた。バックに来場者は「丹念な